

働いてよし&暮らしてよし むらやまの企業

株式会社小堀製作所山形工場

大江町にある株式会社小堀製作所山形工場の若手社員、小林健太さん取材しました！
小林さんは、宮城県にある尚絅学院大学大学院を修了した後、2018年に入社しました。
現在は、特機課で勤務しています。

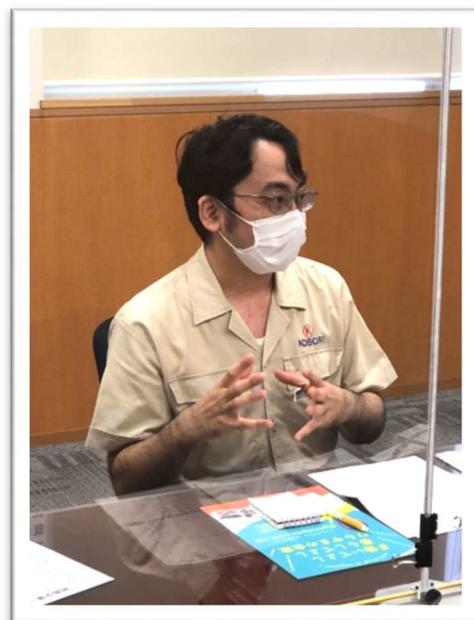
(1) 仕事内容編

———現在のお仕事の内容を教えてください。

仕事内容は、レンズの組立と調整、そして出荷前にレンズに汚れているところがないか、傷ついていないところがないかをチェックする外観検査という、主にこの三つです。

詳しく説明すると、まずはレンズのピント調整ですね。大きい筒のレンズも小さいレンズも、実は何枚もレンズが重なっている構造なんです。そのままだといろんな方向に光が曲がってしまうので、それを綺麗に光が真っ直ぐ通るように、綺麗に像が映るように微調整をしていく作業があります。

そのあと、微調整したレンズの部品を最終的に組み立てる作業です。最後に、接着剤がはみ出していないか、指紋がついていないかなど汚れを見て、綺麗にして梱包して出荷する、というのが具体的な流れです。

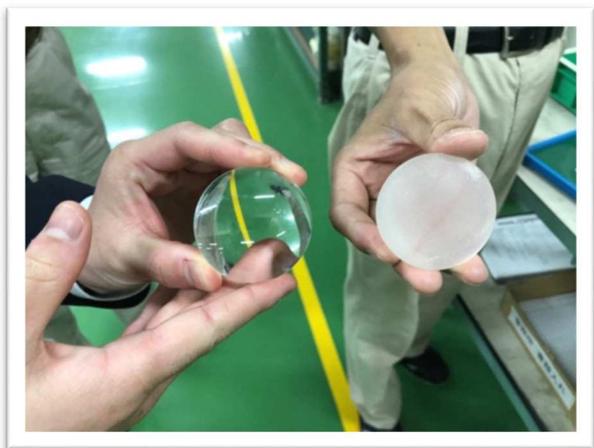


———お仕事をされていて、難しいのはどのようなところでしたか。

難しかったことは特に、レンズの調整を覚えるのが大変でした。マニュアルはあるんですが、勘というか経験を積んでいかないとどうしても分からない部分があります。それは上司の人に「ここがこうなっているんですけど、上手く真ん中に寄らないんですが、どうすればいいですか」など相談しています。

レンズの組立も難しいところがあります。ガラスのレンズってすごく繊細なので、ちょっと間違っただけでも、すぐ欠けたりひびが入ったりするんですよ。指紋がついちゃったり、細かい埃が入ったりしてもやり直しになるので、そうならないように綺麗にエアでふいて、はめて、というのを何度も繰り返してうまくできるようになるまで頑張りました。全体的に勘と熟練が必要というのが難しい部分ですね。

——職場の雰囲気は、相談しやすい環境なんですか。



はい。すごく話しやすい環境だと思います。皆さんがとても優しく接してくれます。自分と同じように、ゼロからスタートした方が多いので、分からないところはだいたい似ているので、色々教えてもらえますね。

分からない部分に関しては「分からないです」と素直に言うほうが、上司も「ここが分からないんだ」と状況を理解して、すぐに回答してくれます。どんどん上達していくためにはコミュニケーションが大事なんだと思います。

——仕事内容は理系がやるイメージが強いんですが、文系で困ったことはありませんでしたか。

自分の仕事内容のなかでは、基本的に理系的な知識はそれほど必要ないです。どちらかというとな手先の器用さとか、あとは部品の名前を覚えるとかの方が重要になっていますね。ただ、例えば図面を起こすとかはちょっと難しいですね(笑)。

会社としては、特に文系・理系というのはあまり重視していないようです。もちろん理系で専門知識があるという場合は、そういう知識を活かしてもらうためにそちらに配属するというふうになっています。



(2) 職場編

——仙台からUターンして現在の仕事をしていると伺いました。小堀製作所に就職を決めた理由をお聞かせください。

自分はもともと大学院で心理学を学んでいたんですね。だけど、大学院修了の年が東日本大震災の年で、一度山形に避難しながら仕事を探していたのですが、うまくいきませんでした。その為、仙台でも仕事を探したんですが、それも限界を感じUターンを決意し、山形に戻ってきたんです。その時に、小堀製作所という会社に出会ったんですね。



小堀製作所を初めて知ったのは合同説明会です。伊東総務課長とお会いしたんですが、そこで「未経験でも、理系とか工学系じゃなくても全然OKですよ」と言っていたのと、実際に工場見学させてもらったときに具体的な仕事内容を知って、「この仕事だったら自分も興味があるからやってみたい」と思ったのがきっかけでした。

——小堀製作所に入社して良かったなと感じることはありますか。

自分は大学院を修了した後、ずっと非正規の仕事をしていました。そういった不安定な仕事が多かったので、小堀製作所に正社員で入社できて、すごく安定感と安心感を得られたというのがまず一つです。

もう一つは、技術的なことをいろいろ学べることです。「ザ・モノづくり」の会社なので、モノづくりの楽しさと大変さというのを学べることですね。

——「モノづくりの楽しさ」というのは、どういうふうにお考えですか。

例えばレンズのピント合わせの作業で、ピントが合ったときに、「ああ！合った！」という感じです（笑）。「やった！」っていう達成感ですね。あとは、自分の一つ一つの作業がだんだん早くなってくると、すごく上手くなっているんだなという感覚があります。まだまだ向上させないといけないので、頑張らなきゃなと思うんですけど（笑）。

小堀製作所は投影用レンズを一貫生産している会社なので、例えばアルミの材料から部品を作って、ガラスのレンズを組み立てて、最終的に投影ができるところまでやります。部品ではなくて完成品ができるという喜びも強いと思います。



一貫生産なので、いろいろな仕事に挑戦できるんですよ。例えばガラスレンズの加工だけじゃなくて、ガラスレンズにコーティング(コート加工)をやったり、組立をやったり。組立作業の中にも、レンズを入れる筒の組立や、極めて精密な部品の組立とか。いろいろなことができるので、必ず自分に合った業務があり、それがすごく良かったなと思いますね。

——小林さんから見た、小堀製作所山形工場のここがすごい！というところは。

まずは、完全一貫生産というのはすごいと思います。あとは皆さん一人一人の技術力の高さですね。ごく普通の主婦といった感じの方が、ものすごく高い技術を持っているのがすごいところだと思います(笑)。

ただ、皆さんが専門的な研修を受けたというわけではなくて、職場で一から積み上げていった方々です。その点で、高い技術力を持てるというのは、職場でのOJT(職場内訓練)がすごいなと思っています。あとは、皆さん教え方が上手いので、そういったところもすごいと思います。



——お仕事をしていく上でのモチベーションを維持するための工夫は何かありますか。

モチベーションを維持しているのは、「やれば終わる！」という思いですね(笑)。とにかく手を進めれば、いつか終結する地点があると思うことです。あとは、周りの先輩達とコミュニケーションをとる事ですね。そうすることでちょうどいい息抜きというか、適度なリラックスをして業務に臨めています。

(3) ある日の過ごし方編

●8:00【ラジオ体操】

出社後、ラジオ体操、清掃を行った後に課内のミーティングを行います。

「ラジオ体操は毎朝やります。天気の良いときは、駐車場で社員全員が並んで一斉にやります。ラジオ体操で体調の変化に気付けることもあるので、そういう意味でも必要だと思います。」



●8:10頃【業務開始】

製品の仕上げ、レンズのピント調整等の業務をします。前日からの続きのものがあれば、そこから始めます。作業で難しいところがあれば、上司や先輩に相談しながら進めます。

●12:00【昼休憩】

コロナ対策のため、工場にある2箇所の食堂に分かれて昼食をとります。お弁当を持参することになれば、仕出しを注文することもあります。



●12:45【午後の作業開始】

午前中と同じ業務を引き続き行います。

●16:55頃【日報記入】

作業の片付けを行い、日報に記入します。

●17:00【退勤】

帰宅します。スーパーで買い物をすることもあります。

(4) むらやまでの暮らし編

——退勤後や休日は何をして過ごしているんですか。

自分は、あまり外に出るタイプではないので、基本的には動画を見たり、読書したりが多いですね。住んでいるのが実家なので、家族がどこか行くというときに一緒について行く感じですね。

——お忙しいと思うんですけども、プライベートとお仕事との両立はしっかりできていますか。

とてもしっかりできています。平日プライベートで会社を休まなくてはならない場合も事前に上司と相談を行い、調整して休ませてもらっています。比較的、有給休暇は取りやすいですね。

——村山地域でおすすめの場所やよく行く場所がありますか。

その質問が、実は一番難しい(笑)。うーん。すぐ近くでいえば、「テルメ柏陵」という温泉があるので、そこに行ったり。あと、自分は前に西川工場（現在は大江町の工場に集約）にいたのですが、その近くに「月山トラヤワイナリー」というワイン醸造所があるので、そこに行ったり。そういったところがお勧めのところですかね。



——地元でUターンをして良かったなということはありませんか。

Uターンをして良かったなって思うのは、住んでいるのが実家なので、経済的には楽かなくなっていうところですね。一番大きいのは、長く住み慣れた環境なので、安心感を持って仕事に励めることですね。

——ご家族の方もやっぱり喜んでいらっしゃいますよね。

そうですね！特に祖母は(笑)。顔が見えないよりは見た方が安心するって言いますね。

(5) まとめ編

——お仕事を続けていく上で、今後の目標はありますか。

今後の目標は、今いる部署の技術をさらに向上させたいということです。自分の周りの人は、入社してから長い方ばかりで皆さんベテランなんですけど、そういった方に1日でも早く追いつき、将来的には指導できる立場になりたいというのが今の目標です。



——学生時代と社会人になってからの大きな違いがあれば教えていただきたいです。



そうですね。一番強く感じるのは責任感が出ることですね。大きな責任感というよりも、「今、目の前にあるものを自分がやらないと終わらないんだ、だったらしっかりやらなければ」というような、小さな責任感の積み上げですね。

学生のときに感じる責任感というのはすごく抽象的なんです。実際に働いてみると「自分がそれをやらないと進まない」ということが目の前に現れるんで

す。そういう具体的なものを前にして生まれる責任感を強く感じるようになりました。

あとよく言われるコミュニケーション能力も、やはり学生の頃だとどういうものなのかがよく分からないんですよ。ただ実際に働くと、別にそんなに難しいことではなくて。例えば、自分が「わからないところがある」のを、上司に「ここが分かりません、どうすればいいですか」と普通に受け答えができることなんですよ。

そういった、学生時代にはぼんやりしていた「責任感」とか「コミュニケーション能力」が、本当に身近な、具体的なものになることが一番大きな差だと思います。自分は、そういう点では小さな階段をちょっとずつ登ってきた感じですね。

——小林さんは就活を進めていく中で大事にしていたことはありますか。

まずはとにかく焦りすぎないことです。急ぐことは必要なんですよ。例えば期日までに応募書類を出すとか。そういう中で急ぐことは必要なんですけども、焦ると絶対に頭がぐちゃぐちゃになってしまうので、まずは焦り過ぎないというのがひとつ。

あと実際に働いている職場を見られるのであれば、絶対に見た方がいいです！これは別にインターンシップじゃなくても、工場見学とか職場見学というレベルで十分効果はあると思います。何をしているのか、どんなことをしているのか、実際に働いている人がどういう動きをしているのかとか、何を実際に扱っているのか、を実際に見られるのはすごく大きいと思います。

もう一つは、他人と比べないことです。就職活動に関して他人と比べることは、はっきり言って意味がないと思います。「自分がどうするか」を大事にしたほうが良いと思います。自分の場合だと就職活動をしたのが25歳を超えていたので、比べる相手すらいなかったんですけども(笑)。学生のと看だと、例えば同級生が「内定をいくつとった」とか出てくると思いますが、それはその人の事なので。自分がどうするかというのが大事だと思います。

——職場見学も大事なんですね。

そうですね。実際にどんな人が働いているのかがわかるので、それが大きいと思います。

あと、インターンシップもそうですが、何度か行ってみると自分の中で納得感というのが出てくるんですね。「あれだけやったんだし、ここにするか」という感じで、納得感を得る点でも大きいと思います。



———ありがとうございました！

小林さんは私たちが聞きたいことに的確に答えてくださり、普段から物事を深く考えられている方という印象を受けました。この日を通して対応して下さった皆さんから、自分たちの会社の良さを伝えたい、という強い思いを感じました。

【インタビュアー：山形大学人文社会科学部 草木啓汰・長沼莉保】

株式会社小堀製作所山形工場

【優れた技術・高い生産性・信頼の品質でお客様のニーズに応えております。】

業務用大型デジタルシネマレンズや高精度監視カメラ用レンズなどの光学製品を生産しています。国内外のお客様からは、4K、8Kに対応する高い品質が要求され、日々研究も重ねています。また、レンズ加工・金物部品加工・組立て・検査までのすべてを有しており、国内外においてレンズの一貫生産を構築している数少ない光学製品のメーカーです。

★ISO14001 認証取得、山形子育て介護いきいき企業【優秀ダイヤモンド】

- ・所在地 山形県西村山郡大江町藤田 750-1
(本社：東京都大田区矢口3丁目34番15号)
- ・設立 大正14年4月
- ・従業員数 190名（男性115名、女性75名）
- ・URL <http://www.kobori-mfg.co.jp>

